

新害虫チャトゲコナジラミの発生状況と生態

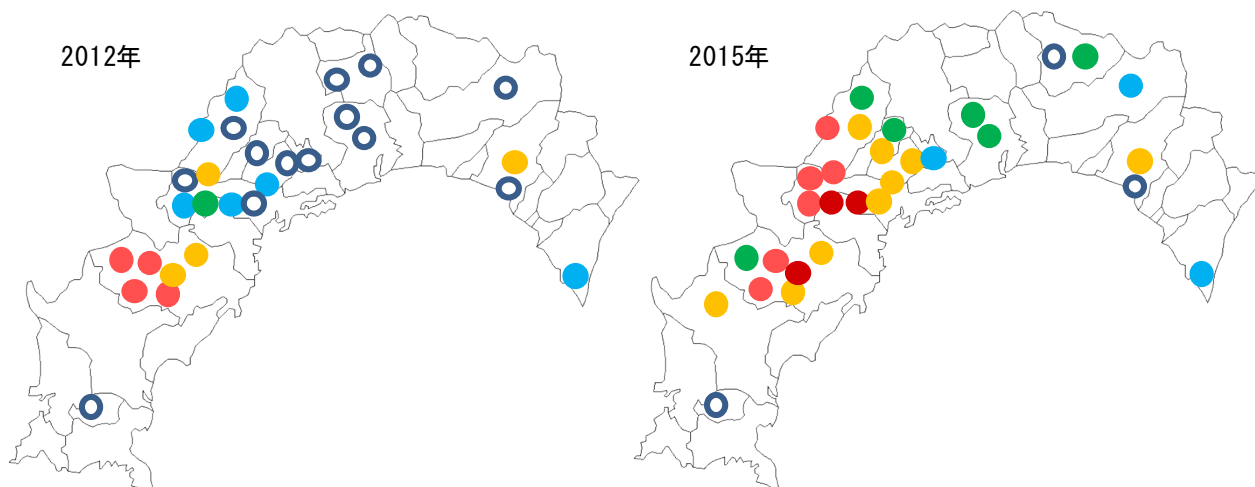


図1 チャトゲコナジラミの分布と発生量

注) 〇: 0頭 〇: 1~10頭 〇: 11~100頭 〇: 101~1,000頭 〇: 1,001~10,000頭 〇: 10,001頭~
ホリバー(黄)1枚当り(両面)の誘殺数(4月下旬~5月上旬調査)



写真1 チャトゲコナジラミ
幼虫



写真2 シルベストリコバチ
雌成虫

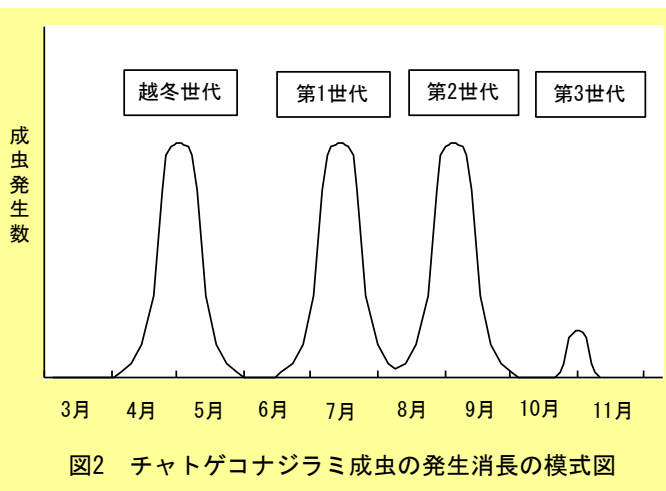


図2 チャトゲコナジラミ成虫の発生活長の模式図

チャの新害虫チャトゲコナジラミ(写真1)は、2011年に本県で発生が確認されました。2012、2014、2015年に、県内一斉の発生確認調査(調査時期:4月下旬~5月上旬)を実施した結果、発生ほ場率は、それぞれ38%、49.7%、91.8%で、急速に分布が拡大していることが明らかとなりました。また、現在、主要産地の仁淀川町、津野町、四万十町で発生密度が高い状況でした(図1)。

本県でのチャトゲコナジラミの発生活長を、安芸市、仁淀川町、津野町、四万十町(各3ほ場、計12ほ場)で調査した結果、越冬世代、第1、2世代の年3回発生するパタ

ーンがほとんどでした。なお一部標高の低い地域のほ場では、第3世代の発生が認められ、県内のチャトゲコナジラミの発生活長は、図2の様になると考えられます(標高によっては2週間程度発生ピークが前後します)。

一方、チャトゲコナジラミの有望天敵として知られているシルベストリコバチ(写真2)も、前記の4市町での調査において、全てのほ場で発生が確認されました。

現在、このシルベストリコバチ等を活用したIPM防除体系について、試験を行っています。

(茶業試験場 杉本篤史 0889-32-1152)